



# 中野本郷

令和5年度 9月号

令和5年9月1日

中野区立中野本郷小学校

校長 福山 広伸

児童数 322名

## 「9月1日 防災の日」 関東大震災から100年!

校長 福山 広伸

また校舎に児童のみなさんの元気な声をもどってきて、とてもうれしく思うとともに、前期後半の開始を実感しています。今年の夏は、たいへん厳しい暑さが続く中、台風の影響により多量の雨が降り続いて、水の被害が大きく出たところもあります。私が台風通過直後に関西方面へ出かけた時には、農作物が濁流で泥にまみれ、収穫できなくなっている畑を何カ所か目にしました。被害に遭われた方々の心中を察するとたいへんに心が痛みます。

自然災害は、避けることは出来ませんが、万が一のときに備えて、準備しておくことはできます。日頃からの備えと心の準備は、常に万全に整えておきたいものです。

1923年(明治12年)9月1日 11:58 「関東大震災」が発生して、今年で100年になります。明治以降に日本で発生した地震では、最大規模の被害となった地震災害です。

相模湾を震源地として発生し、神奈川県沿岸部から千葉県南部で震度7を観測。東京では5~6の震度でした。震源域が広く、震度6以上の揺れを観測した地域が、これまでの地震より10倍ほどにも広がっていたのが特徴で、神奈川・東京を中心に千葉や茨城、静岡など広い範囲で甚大な被害をもたらしました。

死者・行方不明は、10万5千人以上で、内火災による死者は、9万2千人にのぼりました。東京での死者・行方不明:7万人。神奈川の死者・行方不明:3万人。内津波による死者3百人。最大震度を観測していない東京での被害がたいへん大きくなったのは、人口密集地域であったためと言われています。また、耐震構造の無い木造の建物が多かったこと。お昼時の地震発生で火を使っていることが多かったために、広範囲で一斉に多数の火災が発生し、消火活動が追いつかず大規模な火災となりました。更には日本海沿岸に北上する台風があって、強風が吹きこんでいたことも、一層火災規模を大きくした要因となりました。

東京人口は、1396万人(2021年)で、当時の370万人(東京市は250万人)と比べれば、現在は5倍近くの人口になっています。また高層建築が建ち並んだ世界有数の大都市となっている東京での災害発生時には、みんなが秩序をもって助け合い、協力しあって避難をすることが大切だと思っています。各ご家庭でも、万が一の時の対応について、避難場所、待ち合わせ場所などしっかりと確認しておいてほしいと思います。

関東大震災は「三つ子地震」でした。本震から3分後に余震、その5分後にも余震。三回とも本震と同等の強い揺れがありました。このことを教訓とすると...3分以内に一端安全な場所に避難すること、できなければしっかりと崩れない潰れない物の下で身を守る行動をとることなども、考えておくことが大切かもしれません。

「9月1日 防災の日」は、万が一の時のために、準備と心構えを整える日にしていきたいと思います。

### 9月の生活目標 『規則正しい生活をしよう』



長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。子どもたちから貴重な体験をした話や楽しかった話を聞き、心も体も成長したことが伝わってきました。夏休み明け、今日から通常授業や給食のスタートです。夏休み中の生活リズムをなるべく早く学校生活のリズムに戻すことが大切です。早寝早起きをする、必ず朝食を食べること、余裕をもって登校することなど、基本的なことを改めて大切にしながら過ごしていきましょう。

(生活指導部 )